

【連載16】教えて！ 救急の人

講義16

雪崩に遭ったときの 対処法

スキーヤーの皆さんに起きやすい
ケガや病気への疑問・質問に
北海道のお医者さん、歯医者さん、
救急隊員さんがお答えします。



答える人
石川佳信

(いしかわ よしのぶ)

富良野広域連合
上富良野消防署
1980年生まれ、北海道南富
良野町出身。成績は良くあり
ませんでしたが、高校まで競
技スキーをしていました。趣
味はゴルフとスキーです。今
は子供と一緒にスキーを楽し
んでいます。

雪崩に人が巻き込まれたとき どうすればいいですか？



安全を確認し
すばやく
公的機関への通報と
搜索をしましょう。

○まず何をする？

いざというとき、普段は落ち着いて行動できる人でも焦ってしまい、どうして良いかわからなくなってしまうことがほとんどだと思います。しかし、再度雪崩が発生する可能性が高いので、自分の身を守るためにもまちがいなく安全だと思えるところまで移動しましょう。そして周りに人がいれば、助けを求めましょう。その後、110番や119番に電話をして公的機関に通報しましょう。通報をすれば、公的機関からアドバイスをもらうことができます。

○次に何をするか？

通報が済んだら、雪崩に巻き

込まれた人の搜索を行ないます。まず、自分のビーコンを搜索モードに切りかえます。注意点は、助ける人が全員搜索モードになっていること。確認が必要なので、切りかえた人は手を上げるようにするなど、言葉だけではなく誰が見てもわかる方法で行ないましょう(写真1)。

○ビーコン搜索

ビーコンで雪崩に巻き込まれた人を探します(写真2)。雪崩が起きたところは、再度雪崩が発生しやすい危険なところ。ビーコンだけに集中していると、助ける人が再度雪崩が発生したことに気がつかず、巻き込まれてしまうことがあります。視野を広くしながら探しましょう。人数がたくさんいる場合は、周りの状況を監視する人をつけるのも良い方法です。

○プローブ搜索

ビーコンである程度場所を特定したら、プローブを用いて搜索します(写真3)。ビーコンは埋まっている深さまでは特定できないので、プローブを使用してさらに場所を特定することは、ひとつのポイントです。注意点は、場所が特定できたからといってプローブを抜いてしまわないことです。抜いてしまうと、せっかく場所を特定したのに、まったく違うところを掘ってしまう可能性があります。

○雪を掘って人を助ける

場所と深さが特定できたら、雪を掘って巻き込まれた人を救助します。雪を掘るのはとても重労働なので、前後を交代しながら掘るのが良い方法です(写真4)。また、広く掘り出すことがポイントです。人は身長があるので、狭く掘り出してしまうと発見はできても、身体が引っかかりうまく救出できないからです。さらに、掘り出した雪を広範囲に飛ばすことも重要です。いざ救出するということに、掘り出した雪が邪魔になることがあります。

○応急手当

雪のなかから救出して終了ではありません。救出後、意識がない人には心肺蘇生法を、ケガをしている人には状況に応じた応急手当を実施することによって助かる確率がぐんとあがります。勇気をもって応急手当を実施しましょう。

○まとめ

今回は完全に埋没している人を助ける方法の一例です。身体の一部が見える場合は、すぐに掘り出すべきです。しかし一番重要なことは、助ける側が雪崩などの二次災害に巻き込まれないことです。自然が相手なので、予測できないことが起きることを念頭においてバックカントリーを楽しみましょう。

※協力 2014 / 2015カミフ会冬山安全セミナー実技の部受講生様



写真1
ビーコンを切りかえた人は手を挙げて周りに知らせます



写真2
ビーコンを用いて探索開始。注意深く探していきます



写真3
ビーコンである程度場所を特定したら、プローブを用いて搜索します。場所が特定できたら、そのままプローブを留置き、けっして抜かないことが大切



写真4
雪掘りは重労働なので前後を交代しながら掘ります。深さに加えて、面積を広く掘ることも大切です